

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月8日
【四半期会計期間】	第56期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	エバラ食品工業株式会社
【英訳名】	EBARA Foods Industry, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮崎 遵
【本店の所在の場所】	横浜市西区北幸二丁目5番15号 日総第三ビル
【電話番号】	(045) 314-0121 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 高井 孝佳
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区北幸二丁目5番15号 日総第三ビル
【電話番号】	(045) 314-0121 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 高井 孝佳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第1四半期 連結累計期間	第56期 第1四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	11,495,769	12,031,839	48,427,658
経常利益(千円)	287,492	406,054	1,431,805
四半期(当期)純利益(千円)	108,035	193,043	732,712
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	95,138	204,081	930,667
純資産額(千円)	18,962,925	17,690,708	17,734,426
総資産額(千円)	31,295,499	29,805,931	28,952,013
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	10.18	21.11	72.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	60.6	59.4	61.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,352,338	485,835	395,934
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	191,035	309,053	415,099
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	25,589	11,471	2,352,148
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	4,505,372	2,938,768	3,711,023

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、当第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行っており、遡及処理後の数値で前年同四半期比較を行っております。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）におけるわが国経済は、金融緩和等の各種政策により全体としての景況感は徐々に改善されつつありますが、消費税増税による将来的な影響や所得環境の不安等もあり、依然として先行きは不透明な状況にあります。食品業界におきましても、消費者の生活防衛意識や節約志向は依然として根強く、消費者ニーズも多様化する等、難しい経営環境が続いております。

当社グループは、エバラブランドの目指す姿である「新しいおいしさにより、そこに人が集い、笑顔が生まれる」の実現に向け、「たれ・素・スープ」を中心とした調味料でお客様との幅広い接点を持ち、家族の“絆づくり”やお客様のお役立ちを創造することをミッションとして経営を推進しております。昨年からのスタートしたフェイスブックに加え、会員制サイトのエバラClubをオープンする等、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進し、情報発信力を高めることで、当社商品の認知向上とエバラブランドの価値向上を図っております。また、肉の効能に関する啓蒙や「肉1tプレゼントキャンペーン」を展開する等、精肉需要の活性化にも取り組んでおります。さらに、発売35周年を迎えた『黄金の味』の記念限定品を発売し、あらためて「リンゴ」を中心にフルーツをふんだんに使った『黄金の味』の商品価値を訴求するとともに、レシピ本により汎用メニュー提案を行う等、当社基幹商品の活性化も図っております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、120億31百万円（前年同期比4.7%増）となりました。その主な要因としては、新商品の『にんにくのたれ』やメニュー専用調味料の『生姜焼のたれ』等が好調な売上を見せたこと、また、汎用調味料としてクローズアップされた『浅漬けの素』が売上を伸ばしたこと、さらに、広告宣伝事業を中心にその他事業が好調に推移したことが要因として挙げられます。利益面につきましては、売上高の増加に加え、売上原価率及び販管費率が前年同期水準以下に抑えられたことにより、営業利益は4億7百万円（前年同期比53.2%増）、経常利益は4億6百万円（前年同期比41.2%増）、四半期純利益は1億93百万円（前年同期比78.7%増）となりました。

事業におけるセグメントの概況は、以下のとおりであります。

(食品事業)

家庭用商品は前年同期売上高を上回りました。

肉まわり調味料群につきましては、精肉需要の好転等を背景に基幹商品の『焼肉のたれ』や『黄金の味』が底堅く推移したほか、父の日のキャンペーンにおいて『おろしのたれ』とともに投入した新商品『にんにくのたれ』が好調な売上を見せ、また、統一ブランド「たれプラス」を導入したメニュー専用調味料が『生姜焼のたれ』を中心にラインナップを充実させ伸ばした結果、前年同期実績を上回りました。鍋物調味料群につきましては、汎用調味料としての利用価値を高めた『すき焼のたれ』が堅調に推移し、前年同期実績を上回りました。野菜まわり調味料群につきましても、『浅漬けの素』が前第1四半期における震災後の一時的な需要の反動減から復調したことに加え、汎用性の高い調味料としてメディアに取り上げられ売上を伸ばした結果、前年同期実績を上回りました。その他群につきましては、横濱舶来亭カレーフレークが堅調に推移したこと等により、前年同期実績を上回りました。

業務用商品につきましては、肉まわり調味料群及びスープ群が営業活動の強化と新商品投入により売上を伸ばし、また、その他群についても特注品の増加等により伸ばした結果、前年同期売上高を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は105億62百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

(その他事業)

その他事業につきましては、既存顧客の拡販により広告宣伝事業が前年同期実績を上回り、物流事業及び人材派遣事業についても積極的な営業活動が奏功し前年同期実績を上回った結果、その他事業の売上高は14億69百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ7億72百万円減少し、29億38百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、4億85百万円（前年同四半期は13億52百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益において4億6百万円獲得した一方、売上債権の増加16億20百万円による減少等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3億9百万円（前年同四半期は1億91百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2億79百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、11百万円（前年同四半期は25百万円の使用）となりました。これは主に、短期借入金純増加額2億50百万円と配当金の支払2億37百万円等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億80百万円であります。
なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,222,400
計	25,222,400

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,398,400	12,398,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	12,398,400	12,398,400	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	12,398,400	-	1,387,136	-	1,655,201

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,253,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,955,000	8,955	-
単元未満株式	普通株式 190,400	-	-
発行済株式総数	12,398,400	-	-
総株主の議決権	-	8,955	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
エバラ食品工業株式会社	横浜市西区北幸二丁目5番15号	3,253,000	-	3,253,000	26.24
計	-	3,253,000	-	3,253,000	26.24

(注) 上記の他、単元未満株式249株を所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,333,854	3,467,569
受取手形及び売掛金	9,311,308	10,941,288
有価証券	350,249	200,279
商品及び製品	1,338,793	1,327,564
原材料及び貯蔵品	520,692	532,471
繰延税金資産	384,979	385,956
その他	565,528	736,649
貸倒引当金	470	1,476
流動資産合計	16,804,937	17,590,303
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,008,831	3,008,831
その他(純額)	5,153,870	5,089,061
有形固定資産合計	8,162,702	8,097,892
無形固定資産		
投資その他の資産	350,494	319,983
投資有価証券	2,064,994	2,065,072
長期貸付金	44,784	206,569
繰延税金資産	884,553	903,450
その他	685,304	668,417
貸倒引当金	45,757	45,757
投資その他の資産合計	3,633,878	3,797,751
固定資産合計	12,147,075	12,215,627
資産合計	28,952,013	29,805,931

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,113,417	5,573,624
短期借入金	166,404	416,600
未払金	1,655,832	1,243,141
未払法人税等	110,949	206,960
賞与引当金	284,962	623,779
販売促進引当金	534,771	491,373
その他	363,649	508,050
流動負債合計	8,229,986	9,063,528
固定負債		
退職給付引当金	2,757,633	2,827,190
資産除去債務	11,725	11,766
その他	218,241	212,737
固定負債合計	2,987,601	3,051,694
負債合計	11,217,587	12,115,223
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387,136	1,387,136
資本剰余金	1,655,257	1,655,257
利益剰余金	18,312,335	18,258,459
自己株式	3,925,336	3,926,217
株主資本合計	17,429,391	17,374,635
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	283,446	248,781
為替換算調整勘定	21,587	67,291
その他の包括利益累計額合計	305,034	316,072
純資産合計	17,734,426	17,690,708
負債純資産合計	28,952,013	29,805,931

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	11,495,769	12,031,839
売上原価	5,815,859	6,049,364
売上総利益	5,679,910	5,982,474
販売費及び一般管理費	5,413,678	5,574,727
営業利益	266,231	407,746
営業外収益		
受取利息	2,807	2,578
受取配当金	17,337	17,852
受取賃貸料	4,965	5,681
その他	33,660	7,558
営業外収益合計	58,770	33,671
営業外費用		
支払利息	834	300
賃貸収入原価	3,499	4,217
持分法による投資損失	33,175	28,855
その他	-	1,989
営業外費用合計	37,509	35,363
経常利益	287,492	406,054
特別利益		
固定資産売却益	-	798
特別利益合計	-	798
特別損失		
固定資産除却損	22,672	383
投資有価証券評価損	3,447	-
特別損失合計	26,120	383
税金等調整前四半期純利益	261,372	406,470
法人税等	153,336	213,426
少数株主損益調整前四半期純利益	108,035	193,043
四半期純利益	108,035	193,043

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	108,035	193,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,909	34,665
為替換算調整勘定	21,012	45,703
その他の包括利益合計	12,897	11,038
四半期包括利益	95,138	204,081
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95,138	204,081
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	261,372	406,470
減価償却費	260,012	264,596
固定資産除却損	22,672	383
固定資産売却損益(は益)	-	798
投資有価証券評価損益(は益)	3,447	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	131	1,005
退職給付引当金の増減額(は減少)	23,152	69,557
賞与引当金の増減額(は減少)	311,543	338,816
販売促進引当金の増減額(は減少)	21,367	43,398
受取利息及び受取配当金	20,144	20,431
支払利息	834	300
持分法による投資損益(は益)	33,175	28,855
売上債権の増減額(は増加)	1,309,040	1,620,640
たな卸資産の増減額(は増加)	15,790	3,498
仕入債務の増減額(は減少)	96,104	458,052
未払消費税等の増減額(は減少)	23,527	61,393
長期未払金の増減額(は減少)	-	4,680
未払金の増減額(は減少)	450,496	258,624
その他	90,738	77,296
小計	850,754	392,940
利息及び配当金の受取額	21,129	21,454
利息の支払額	834	300
法人税等の支払額	521,878	114,048
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,352,338	485,835
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	2,083	1,735
貸付けによる支出	-	191,734
定期預金の払戻による収入	136,000	100,000
定期預金の預入による支出	106,000	6,000
投資有価証券の取得による支出	2,475	2,382
有価証券の償還による収入	400,000	150,000
有価証券の取得による支出	600,000	-
関係会社株式の取得による支出	-	56,606
有形固定資産の売却による収入	-	1,076
有形固定資産の取得による支出	31,939	279,185
無形固定資産の取得による支出	25,632	42,989
その他	36,929	17,031
投資活動によるキャッシュ・フロー	191,035	309,053

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	250,197	250,196
配当金の支払額	274,889	237,843
自己株式の取得による支出	896	880
財務活動によるキャッシュ・フロー	25,589	11,471
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,961	11,160
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,566,001	772,255
現金及び現金同等物の期首残高	6,071,374	3,711,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,505,372	2,938,768

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

従来、「受取賃貸料」に対応する費用については、「売上原価」に含めて表示しておりましたが、重要性の観点から当第1四半期連結会計期間より、営業外費用に「賃貸収入原価」として表示する方法に変更しております。

これは、当社グループの事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「売上原価」で表示していた3,499千円を営業外費用の「賃貸収入原価」に組み替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

次の会社のリース会社との契約について、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
青島康大食品有限公司	52,332千円 青島康大食品有限公司 51,785千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	5,267,165千円	3,467,569千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	961,947	729,080
有価証券勘定	200,155	200,279
現金及び現金同等物	4,505,372	2,938,768

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月27日 取締役会	普通株式	286,457	27	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月30日 取締役会	普通株式	246,919	27	平成25年3月31日	平成25年6月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	食品事業		
売上高			
外部顧客に対する売上高	10,128,038	1,367,731	11,495,769
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	10,128,038	1,367,731	11,495,769
セグメント利益	356,289	17,223	373,512

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、物流事業、人材派遣事業を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	356,289
「その他」の区分の利益	17,223
全社費用(注)	107,280
四半期連結損益計算書の営業利益	266,231

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント	その他	合計
	食品事業	(注)1	
売上高			
外部顧客に対する売上高	10,562,087	1,469,751	12,031,839
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	10,562,087	1,469,751	12,031,839
セグメント利益	495,595	21,095	516,690

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、物流事業、人材派遣事業を集約しております。

2. 「第4 経理の状況 注記事項（追加情報）」に記載のとおり、従来、「受取賃貸料」に対応する費用については、「売上原価」に含めて表示しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、営業外費用に「賃貸収入原価」として表示する方法に変更しております。

この結果、遡及処理を行う前と比べて、前第1四半期連結累計期間の食品事業のセグメント利益は、3,499千円増加しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
 の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	495,595
「その他」の区分の利益	21,095
全社費用(注)	108,944
四半期連結損益計算書の営業利益	407,746

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円18銭	21円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	108,035	193,043
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	108,035	193,043
普通株式の期中平均株式数(株)	10,609,373	9,144,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年4月30日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....246,919千円

(ロ) 1株当たりの金額.....27円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年6月7日

(注) 平成25年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 7日

エバラ食品工業株式会社
取締役会 御中

三優監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 杉田 純 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小林 昌敏 印

業務執行社員 公認会計士 熊谷 康司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエバラ食品工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エバラ食品工業株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。